

話題のテーマ - コーポレートガバナンスの変化と日本的経営の行方

大学院公開講座第1期終わる

大学院公開講座の第1期が7月5日から26日までの毎週水曜日に開講され、毎回150人を超える多くの聴講者が来場し、盛況だった。

今期のテーマは「コーポレート・ガバナンスの変化と日本的経営の行方」。株主主権の経営や敵対的企業買収、内部統制の強化など、コーポレート・ガバナンスの変化の下で、かつてない変化にさらされている日本的経営の行方を、経営学研究科の櫻井通晴教授を皮切りに、法科大学院の松岡啓祐教授、経済学研究科客員教授で日本経済新聞社コラムニストの西岡幸一氏、経済学研究科の宮本光晴教授が最新のレポートや時事ネタなどを織り交ぜながら講演した。



▲宮本光晴教授



▲西岡幸一客員教授



▲松岡啓祐教授



▲櫻井通晴教授

◆第2期は「司法改革」テーマに11月8日から

第2期は、11月8日からは、「司法改革—裁判員制度の導入と刑事司法の行方—」をテーマに行われる(11月29日までの毎週水曜日)。

申し込み、問い合わせは大学院事務課 電話 03-3265-6568、E-mail graduate@acc.senshu-u.ac.jp まで。詳細は[ホームページ](#)で。

会計学研究会で講演会

簿記会計をいかに学ぶか — 国家と企業の盛衰は「会計」で決まる

会計学研究所(所長=柳裕治教授)主催による会計学講演会が、7月4日に生田キャンパスで開催され、学生、院生、教員約350人が聴き入った。

講師の石川純治教授=写真=は、会計理論・情報論研究の第一人者であり、今年度の税理士試験委員でもある。講演ではまず、自らの公認会計士試験合格体験及びカネボウ粉飾決算事件と会計士の任務、責任について、「簿記会計をいかに学ぶか」として「学び方を学ぶ」必要性について具体的に説かれた。終わりに21世紀の国家と企業の盛衰は「会計」で決まるとされ、会計・監査・税務を担う若い人たちが高い志をもつことの重要性を訴え、しめくくった。



【講師紹介】石川純治教授:駒澤大学教授、経済学・商学博士。公認会計士・税理士試験委員歴任。日本簿記学会賞、日本公認会計士協会学術賞受賞。著書は『変わる社会、変わる会計』『経営情報と簿記システム』『時価会計の基本問題』等多数。

社会体育研究所

HIV感染者の日常描くドキュメンタリーを上映

社会体育研究所(長島博所長)では6月29日、授業(保健体育科目)の一環として、タイ北部の村でHIVに感染しながらも、生きる希望を失わない家族の姿を3年間にわたり見つめたドキュメンタリー映画「Yesterday Today Tomorrow昨日 今日 そして明日へ」(制作・アジアプレス・インターナショナル・2005/バンコク国際映画祭出品作品)を上映、約1200人の学生が鑑賞した。



監督の直井里予さんは本学テニス部で活躍し、その後アメリカ留学を経て現在、近畿大学健康スポーツ教育センター専任講師を務める直井愛里さん(平7経営)の実姉。

▲上映に先立ち、趣旨を説明する長島所長

コーディネーターを務めた佐藤雅幸経済学部教授は、「この映画を通してHIVに対する正しい理解と、命ある限り、今この瞬間をしっかりと生きていくという意味を学生達が感じてくれれば」と企画の意図を話した。

研究所では今後、監督を招いてパネルディスカッションなども行っていきたいとしている。

法学部司法試験対策委員会主催特別講演会

首都大学東京法科大学院・前田教授が講演

『刑法総論講義』『少年犯罪』などの著書で知られる、前田雅英・首都大学東京法科大学院教授を講師に招き「社会の変化と財産犯論」をテーマに7月14日、法学部司法試験対策委員会主催の特別講演会を神田キャンパスで開催。約250人が聴講した＝写真。

財産犯とは自己の財物を窃盗、詐取、侵害などされた事件を指すが、前田教授は「法解釈は社会の動向により変化するものである」と指摘。盗品、担保物件や分割払い物品、銀行の誤振込などでの所有権、占有権の係争について、明治以来の刑法解釈の変化を、刑法235条、242条などの判例を引き解説した。



「専修人の新しい本」

新・日本の時代
スティーブン・ヴォーゲル著
平尾光司訳

約30年前に話題となった『ジャパン・アズ・ナンバーワン』のエズラ・ヴォーゲル氏の子息である著者は、先進国の政治・経済・社会制度の相互関係を研究し、現在はカリフォルニア大学バークレー校の准教授。



本書では、日本の政治—経済—経営のいわゆる「日本型モデル」が、バブル崩壊後の長期停滞の中で、どのような変革への圧力を受け、改革が進展していったかを精細に跡づけ、「新・日本型モデル」ともいべき、ポスト・バブルの社会経済システムが形成されつつあることを考察。日本を内側からも観察してきた著者は、アメリカ型市場経済の過大評価とそれへの単純な収斂への警告を主張している。(日本経済新聞社・本体1800円＋税)

訳者(ひらお・こうじ)＝経済学部教授。担当は中堅企業論ほか。本書の調査に協力。

持続可能型保健企業への変貌
上田和勇著

本書は二つのテーマを分析している。一つは保険の売り手である保険企業の履行すべき責任について、本業である経済的責任を中心に、社会的責任、情報開示責任、統治責任とのバランス化を図る持続可能性の視点からの分析である。不祥事の絶えないわが国保険業界に対し、英国やオーストラリアの諸制度の特徴を分析しその導入を提言している。もう一つは保険の買い手である消費者に対し、保険購買時のリスク最小化のための基礎的事項、良い保険会社の条件などを平易に解説している。



保険の売り手に持続可能性の概念の実行を求め、買い手には最小限の基礎知識の吸収を求め、最終的に顧客満足度の高い保険制度、保険普及のあり方を明らかにしている。(同文館出版・本体2200円＋税)

著者(うえだ・かずお)＝商学部教授。担当はリスクマネジメントほか。

南アジアの歴史
内藤雅雄・中村平治編

インドは、最近の急速な経済発展国として挙げられる「ブリックス(BRICs)」のひとつとして注目を集めているが、このインドを中心としてパキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、モルディブを含む地域の歴史を、古代インダス文明から現在に至るまで概観した一冊。紙数の半分以上を18世紀以降(近現代)の記述に割いており、特に第2次大戦後から現在までの状況について詳しい。同地域は近年ニュースで取り上げられることも多いが、その政治、経済、文化、思想の歴史的背景を手軽に知ることができる。(有斐閣・本体2300円＋税)



編者(ないとう・まさお)＝文学部教授。担当は東洋文化史ほか。／(なかむら・へいじ)＝元文学部教授。